

(様式2)

校種	小・中	学校番号	60	学校名	宇都宮市立上河内東小学校
----	-----	------	----	-----	--------------

令和3年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 市の学力調査などから

- ・授業において、めあて、まとめ、振り返りの確認を行ってきたことや、朝の学習の実践により、基礎的な内容の定着に改善傾向が見られるようになった。
- ・毎年、学年によって学力定着度の傾向に差が見られる。今後は、基本的な内容の定着を図るとともに、基本を活用して考える問題や文章で説明する問題についても力を付けていく必要がある。
- ・国語では、問題や資料から読み取って理解したことなどを自分の言葉で説明するという記述式の設問や、話し合いの内容を聞き取る問題において、やや課題が見られた。授業等で資料をもとに読み取ったことを説明したり、書いて表現したりするなど、言語活動の充実を図っていく。
- ・算数の「思考・判断・表現」の分野において、計算力と思考力を関連させて解く問題にやや課題が見られた。授業において数学的な表現を用いて考えたり、筋道立てて説明したりする活動を取り入れ、思考力の向上を図る。

(2) 市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・学習への取り組みについては、どの学年も平均を上回る肯定的回答が多い。自分自身に関する質問への肯定割合が高く、自己肯定感の高い児童が多い。
- ・家庭学習については、どの学年も「学校の授業以外にも家で勉強している」割合が高く家庭学習の習慣化が図られている。「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」児童の肯定割合も昨年度より改善傾向が見られた。今後も家庭学習を効果的に進めていけるよう、家庭と連携しながら継続指導していきたい。

(3) 授業等への取組状況から

- ・与えられた学習課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。グループ学習や体験的な活動にも意欲的に取り組むことができる。
- ・自分で見通しをもって考えたり、筋道立てて根気よく考えたりすることが苦手だが、授業改善等により、主体的に課題に取り組んで解決していこうとする態度や、話し合う・考えを書くといった言語活動に意欲的に取り組もうとする態度が育ってきた。

2 今年度の重点目標

ICTを活用し、生き生きと学び合う児童の育成
～主体的・対話的な学習の推進を目指して～

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和3年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）基礎・基本の確実な定着

- ・音読活動の推進（通年）
- ・パワーアップシートやステップアップシート、タブレット等の計画的活用。（通年）
- ★□・基本的な学習技能の習熟と家庭学習の習慣化（通年）
- ・朝の学習を活用した反復練習による漢字・計算の基礎学力の定着とタブレット操作への慣れ親しみ（通年）

（2）学習指導の工夫・改善

- ★□・各種学力調査、質問紙調査の結果を生かした指導の共通理解と共通実践（通年）
- ★□○めあての提示によるねらいの理解と、ねらいに沿った振り返り活動の工夫（通年）
- ★□・生き生きと学び合い、協働的に課題解決をする学習活動の工夫（通年）
- 一人一授業の実践と授業研究会の実施（通年）

（3）読書活動の推進

- ・朝の活動を利用した15分間読書（水・金）や校内読書週間（11月）の実施
- ・図書ボランティアや教職員による読み聞かせの実施（通年）

（4）家庭・地域との連携・協力

- ・「東っ子の学習」を活用した家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携（通年）
- ・「ゆずっ子5つの約束」による地域学校園で連携した取り組み（通年）
- ・魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力（通年）

（5）宮・未来キャリア教育の推進

- ・キャリアパスポートを活用し、年間指導計画の実践を通して、児童の勤労観・職業観の育成

（6）GIGA スクール構想

- ・一人一台配備されたパソコンを活用した探究的・対話的な学習（通年）
- ・プログラミング学習の充実（通年）
- ・基本ソフトを活用した学習のまとめ、新聞作成、作文等への活用（通年）

（7）宇都宮学

- ・社会科、総合的な学習の時間を中心に副読本や映像教材等を活用した郷土愛の醸成
- ・地域の伝統的な行事活動への参加、体験活動の充実（通年）
- ・食育との連携（通年）